

機械科昭和48年卒同期の会

<卒業50周年と古希を祝う会>

川尻 孝紀

(昭和48年機械科卒)



★ 同期会開催のいきさつ

令和4年の秋、同期生の伊藤喜太郎と加藤秀夫が訪ねてきた。喜太郎が「いやー!久しぶり!」と右手を差し出しガッチリ握手を交わした。神社の口ビーで三人は昔話を花を咲かせた。

喜太郎は東京で焼鳥屋を営んでいたが、家庭の事情もあり、近年店じまいをして実家に帰郷していた。喜太郎の話によると近く同期の船木一美が仕事の関係で秋田に来るといふ。折角の機会なので秋田の同期生へ声掛けして歓迎の宴を催すことになった。場所は同じく同期のラグーマンであった渡辺良盛の経営する駅東の店であった。参加者は喜太郎に秀夫、そしてラグビー部の石井信夫、陸上部の富樫俊一、同じく陸上部の豊巻隆之、そして当時軽音楽同好会であった船木一美と同じく軽音楽同好会にいた自分の計7名である。

歓迎の宴が始まると皆大いに昔の思い出話を花を咲かせた。これまでの人生や現況など様々な話があった。その中で年明けは我々同期は卒業50年になると船木が言った。また、自分は同期生が「古希」の年祝いに当たると話した。もうずいぶん長いこと同期会が開催されていないことからこの機会に「卒業50周年と古希を祝う会」を開催したらどうかという話になった。これがこの度の同期会開催に至ったいきさつである。

★ 卒業50周年と古希を祝う会

この会を開催するにあたり、まずは名簿作成から始まった。富樫が早速過去に発行された同期生の名簿を持ってきた。我々機械科の同期生はAからCの3クラスで136名であった。すぐにパソコンにデータを打込み名簿を作成してみた。不詳不明などを除きちょうど100名のデータ資料ができた。全く居住先のない者、転居先不明な者、既に逝去した者、様々である。案内状は仕事上得意分野の船木が作ってくれた。送られてきた案内状を見てさすがプロの仕事だなとしきりに感嘆した。

先の宴で集った7人が幹事となり自分が事務局を引受けた。秋田の代表幹事を富樫に、関東地区の代表幹事を船木に担当してもらうことになった。

色々な事情を考慮し開催日時を令和5年2月24日に定め令和4年年末までに案内状を発送した。その後、返信はポチポチきたが、転居先不明で戻ってくるもの、逝去の通知のもの、全く音信不通不明のものなど様々である。結局出席者は28名(懇親会)となった。しかし、最後の週に入りこれで決定かと思われたが船木からコロナ感染の濃厚接触者となり迷惑を掛けてはいけないとのことやむなく欠席すると連絡があった。さらに、原田勲から電話が入り、

の逝去で出席ができなくなったと連絡があった。ということで最終的に26名の参加ということになった。

2月24日(金)開催日当日を迎えた。午後3時幹事等が総社神社口ビーに集合し受付の準備を整えた。時刻前まで続々と同期生等は集合した。皆50年ぶりの歳月のため顔を見ただけでは本人を確認できず受付で名札を渡す時にはじめて本人確認ができた。しばらく「久しぶり!元気か!」と懐かしい顔合わせに感激していた。

午後4時一同は神前に整列。当時の生徒会長の鈴木巖は紫のチャンchanコに紫の頭巾、右手に白扇を持ち皆と一緒に着席し、厳かに開始の太鼓が鳴った。お祈りを受け自分が古希祝いの「祝詞(のりと)」を奏上し、参列者一同の健康長寿を祈願した。

神事が済むと各自御神酒(おみき)を頂き、引き続き神社の前に整列し記念写真を撮影した。撮影が終わると鳥居前に待機していたホテルのマイクロバスで懇親会場のアキタパークホテルに移動した。

午後5時30分、秋工機械科昭和48年卒同期生の会卒業50周年と古希を祝う会の記念懇親会を開会した。司会は幹事の石井信夫が務めた。始めに恩師と同期生物故者に対し鎮魂の黙祷を行った。次に主催者代表として幹事富樫俊一が挨拶をし、次に当時の生徒会長であった鈴木 巖が挨拶。続いて自分が経過報告。続いて幹事豊巻隆之が乾杯の音頭を取り祝宴が進んだ。テーブルは松・竹・梅・福・寿の5つに別れクラス毎に着席した。しばらく思い出話に盛り上がると、各テーブルに近況など自己紹介を兼ねてスピーチがリレーされた。それぞれの人生山河に肯き感動している様子であった。宴たけなわとなり全員起立し、校歌とラグビーの歌を合唱した。一気に感動は往時を偲ばせた。最後に幹事加藤秀夫の音頭で乾杯し閉宴となった。

盛り上がったメンバーは加藤秀夫の紹介する店での二次会に会場を移した。ほとんどのメンバーが参加した。二次会では会話はもちろん喜太郎がカラオケを引っ張っていた。午後10時半ごろ二次会も閉会となり一同再開を期して解散した。

★ 会を終えて

私が宮司をしている総社神社は神亀元年(724年)の創祀を伝える秋田県内屈指の古社として崇敬されてきた。来年令和6年(2024年)は創祀1300年を迎える。

この度同期生の縁をもって古希を祝う神事を奉仕させていただいた。人は色々な縁で繋がっているなとつくづく感じた次第である。



古希の祝いに出席の面々/総社神社本殿前にて

出席できなかったS48M同期会への追記

船木 一美 (昭和48年機械科卒)

2月19日に一人暮らしの義姉が夜中に自宅で転び肩を脱臼骨折。加えて軽症ではあったがコロナに感染していると診断された。その際の入院騒ぎで終日義姉に付き添ったカミさんと私は、担当医師から19日を0日として一応濃厚接触者の対応(5日間の自宅待機が基本)をしてくださいと言われた。体調的に何の異常も問題もなかったものの、もしものことを考え、5日後(2月24日)の秋田でのS48M同期会には行かないことにした。

仕方のないことではあるが少々落ち込んでいたところへ、秋田の上新城に住む同級生の原田勲から電話が来た。お母さんの急な逝去で同期会に出られなくなったとのこと。実は俺も…とひとしきり原田と話ができたお陰か少し気分が軽くなった。その流れで同期会の事務局をしてきている同じく同級生の川尻孝紀に出席できない旨を連絡。併せて東京秋工工会報KANASAIに載せる記事原稿を書いてくれないかとお願いした。川尻は快くOKしてくれた。感謝!である。

前文の中で川尻も書いてくれているが、今回のS48M同期会開催の主旨は、今年が卒後半世紀(50周年)に当たることに加え、同期のほとんどが数え年70歳(満69歳)の古希を迎えることもあり、そのダブル祝いをしようということにあった。古希の歳祝いについていえば、3月早生まれである私には1年早いということになる。それでも秋工卒としては稀有な神社の宮司という職に就いた同級生に、歳祝いの神事をしてもらえるという誇らしさやら嬉しさやらがあり、昨年10月秋田に行った折の飲み会の席でその話が出た時、1年早くても構わない、と躊躇なく賛同した。また年齢



昨年10月の秋田での飲み会にて

的なことを考えると今後今回のような形で同期を集めることができるか、例えば10年後に傘寿と卒後60周年を兼ねてできるかと考えると、甚だ???…。ゆえに今回欠席せざるを得なくなったのはまことに残念と言うしかない。同期のみんなと一緒に川尻に祈祷してもらいたかったし、川尻の神主姿も見たかった。

川尻とは2年生から同じクラスになり、自転車通学で帰る方向が同じということもあって一緒に帰ることが多かった。彼を軽音楽同好会に誘ったのは私だった。であるにもかかわらず3年生の

機械科昭和48年卒同期の会 <卒業50周年と古希を祝う会>

●出席者 (順不同・敬称略)

石井 信夫	田中英彦	伊藤喜太郎
川尻 孝紀	高橋新悦	竹内一史
熊谷 一夫	敦賀守雄	加藤秀夫
熊谷 正	富樫俊一	阿部公雄
今野正人	豊巻隆之	佐々木善行
佐藤定春	中村和之	嵯峨祥夫
柴田寿光	沼田祐一	田松俊美
進藤 孝	長谷川健一	今野真保
鈴木 巖	古山金盛	田中 調※

※は、古希祝いの神事のみへの参加。

夏、私は何の相談もせず自分勝手に軽音楽同好会を抜け音楽部に転部した。彼に対して少々引け目なその思い出を、昨年10月の卒業以来の再会一番に何気にも言ってみたが、彼はすっかり忘れてくれているようだった。50年も前のことだ、当たり前か…(笑)。

川尻が総社神社の宮司になったと聞いたのはだいぶ前のこと。訪ねてみたいと思ったこともあるがなかなか機会がなかった。総社神社には些細な思い出がある。旭北小学校5年生時の図画工作の授業で、総社神社の境内のケヤキから好きな木を選んで写生するというのがあった。1本の木を真ん中に置く構図がほとんどだったのに対し私は両端に2本の木を置く構図にし、それをえらく褒められた。その時写生の対象にした風景の印象を今もおぼろげながら思い出すことがあり、まさかなとは思いつつ、その頃の木はまだあるものかな?と川尻に聞いてみた。総社神社境内のケヤキ林は「秋田市ふるさと百景」に選定されており、古くからの木が多く残っているからあるかもしれないぞ、と答えてくれた。この次秋田に行った際には思い出探しを兼ね、必ず訪れたい。



総社神社境内

今回のようなイベントの同期会を催すチャンスは、今後まずないだろう。出席できなかったことは本当に残念だったが、川尻がしっかりと事務局をやってくれたお陰で卒業以来会えていないS48M同期・同級の消息が分かった。年賀状1枚のやり取りでもいい、あの頃秋工と一緒に過ごした同期・同級の仲間たちとの縁を大事にしていきたいと改めて思っている。

最後に、今回のS48M同期会幹事メンバーである、川尻孝紀、伊藤喜太郎、富樫俊一、豊巻隆之、石井信夫、加藤秀夫の6人には、幹事の一人でありながら出席できなかったことへのお詫びと、開催運営ご苦労様、の意を伝えておきたい。

一言追記…。我が同級生、川尻孝紀が宮司を務める総社神社にご興味のある方は、ぜひ同神社の公式サイト<<http://www.sosha-j.jp/>>をご覧ください。



総社神社宮司・川尻孝紀